

本県の周産期・小児医療の現状

1 本県の周産期医療資源について

(1) 分娩取扱医療機関等

県内で産科・産婦人科を標榜している医療機関は年々減少しており、令和8年において61施設(平成29年は68施設)となっている。このうち、分娩を取り扱っている病院・診療所(以下、「分娩取扱医療機関」という。)は35施設(約57%)となっている。また、分娩を取り扱っている助産所が4施設ある。

表 1 周産期医療関連施設（各年4月1日）

	産科又は産婦人科を 標榜する 病院・診療所	病院・診療所の内訳			分娩を扱う 助産所
		分娩取扱医療機関 (病院・診療所)	妊婦健診を行う施設 (分娩は扱わない)	休診等施設	
平成29年	68	42	16	10	4
令和3年	65	39	18	8	4
令和5年	63	37	16	10	4
令和8年	<u>61</u>	<u>35</u>	<u>15</u>	11	<u>4</u>
増減 (対平成29年)	△ 7	△ 7	△ 1	1	0

資料：県子育て支援課「状況調査結果」

県では、小児科・産科医療圏として、「薩摩」、「北薩」、「姶良・伊佐」、「大隅」、「熊毛」、「奄美」の6つの医療圏を設定しており、分娩取扱医療機関数を医療圏ごとにみると、薩摩17施設(鹿児島15、南薩2)、北薩4施設、姶良・伊佐5施設、大隅4施設、熊毛2施設、奄美3施設となっている。

出生千人当たりの分娩取扱医療機関数の推移を見ると、令和7年度の県全体は4.0施設であるが、大隅では3.3と少ない状況にある。

表 2 分娩取扱医療機関数（各年4月1日現在）

小児科・産科医療圏		薩 摩		北 薩		姶良・伊佐	大 隅		熊 毛	奄 美	県 計
2次医療圏		鹿児島	南薩	川薩	出水		曽 於	肝 属			
分娩取扱 医療機関数	平成29年	21		5		6	4		2	4	42
	令和3年	19		5		5	4		2	4	39
	令和5年	18		4		5	4		2	4	37
	令和8年	17		4		5	4		2	3	35
	増減(対平成29年)	△ 4		△ 1		△ 1	0		0	△ 1	△ 7
出生千人 当たりの 分娩取扱医 療機関数	平成29年	3.1		3.0		2.9	2.1		7.0	4.4	3.1
	令和3年	3.2		3.7		2.8	2.6		8.1	5.3	3.4
	令和5年	3.1		3.4		3.0	2.9		10.4	4.2	3.3
	令和7年	3.9		3.9		3.8	<u>3.3</u>		10.9	5.2	<u>4.0</u>
	増減(対平成29年)	0.8		0.9		0.9	1.2		3.9	0.8	0.9

資料：県子育て支援課「状況調査結果」

(2) 分娩取扱医療機関（35 施設）における医師数等

令和 8 年 4 月現在の産科医師数は、130.5 人（非常勤は常勤換算後）となっており、平成 29 年と比べると 9.5 人の増となっている。

令和 7 年 4 月 1 日時点の出生千人当たりの産科医師数は、大隅の 7.2 から熊毛の 22.4 と地域格差がみられる。

令和 8 年 4 月現在の産科医 1 人当たりの年間分娩件数について、姶良・伊佐は 99.9 件と最も多い。

令和 8 年 4 月現在の助産師数は、346 人（常勤）となっており、平成 29 年と比べて 16 人の減となっている。

また、出生千人当たりの助産師数は、熊毛の 21.9 人から薩摩の 55.1 人と地域格差がみられる。

表 3 分娩取扱医療機関の産科医師数（各年 4 月 1 日現在）

（単位：人、件）

小児科・産科医療圏		薩 摩		北 薩		姶良・伊佐	大 隅		熊 毛	奄 美	県 計
2 次医療圏		鹿児島	南薩	川薩	出水		曾於	肝属			
産科医師数 （非常勤は 常勤換算）	平成29年		81.9		9.6	12.6		7.1	2.3	7.5	121.0
	令和 3 年		83.8		12.1	11.6		8.4	3.2	9.3	128.4
	令和 5 年		92.6		10.1	13.2		8.5	4.1	8.1	136.6
	令和 8 年		86.0		10.2	12.6		8.0	4.5	9.2	<u>130.5</u>
	増減（対平成29年）		4.1		0.6	0.0		0.9	2.2	1.7	9.5
出生千人 当たりの 分娩取扱 産科医師数	平成29年		11.9		5.8	6.2		3.7	8.0	8.3	8.8
	令和 3 年		14.0		9.0	6.5		5.4	13.0	12.4	11.0
	令和 5 年		17.2		8.6	7.9		6.2	21.4	11.5	13.0
	令和 7 年		20.4		10.0	9.0		7.2	22.4	16.1	15.5
	増減（対平成29年）		8.5		4.2	2.8		3.5	14.4	7.8	6.7
産科医一人 当たりの 分娩件数	平成29年		102.0		182.4	159.4		223.4	99.6	106.0	121.6
	令和 3 年		86.5		119.2	146.4		146.9	56.3	63.7	96.5
	令和 5 年		70.8		120.1	118.4		135.5	36.3	67.2	81.8
	令和 8 年		65.3		98.0	<u>99.9</u>		98.6	28.0	46.6	<u>70.7</u>
	増減（対平成29年）		△ 36.7		△ 84.4	△ 59.5		△ 124.8	△ 71.6	△ 59.4	△ 50.9

資料：県子育て支援課「状況調査結果」

表 4 分娩取扱医療機関の助産師数（各年 4 月 1 日現在）

（単位：人、件）

小児科・産科医療圏		薩 摩		北 薩		姶良・伊佐	大 隅		熊 毛	奄 美	県 計
2 次医療圏		鹿児島	南薩	川薩	出水		曾於	肝属			
助産師数	平成29年		237		28	35		25	7	30	362
	令和 3 年		259		36	49		33	6	44	427
	令和 5 年		261		32	46		34	7	37	417
	令和 8 年		228		28	33		27	5	25	<u>346</u>
	増減（対平成29年）		△ 9		0	△ 2		2	△ 2	△ 5	△ 16
出生千人 当たりの 助産師数	平成29年		34.5		16.8	17.2		13.0	24.3	33.4	26.4
	令和 3 年		43.4		26.9	27.6		21.1	24.4	58.6	36.7
	令和 5 年		48.4		27.1	27.4		24.6	36.5	52.3	39.6
	令和 7 年		<u>55.1</u>		29.4	25.9		22.3	<u>21.9</u>	48.6	42.3
	増減（対平成29年）		20.6		12.6	8.7		9.3	△ 2.4	15.2	15.9

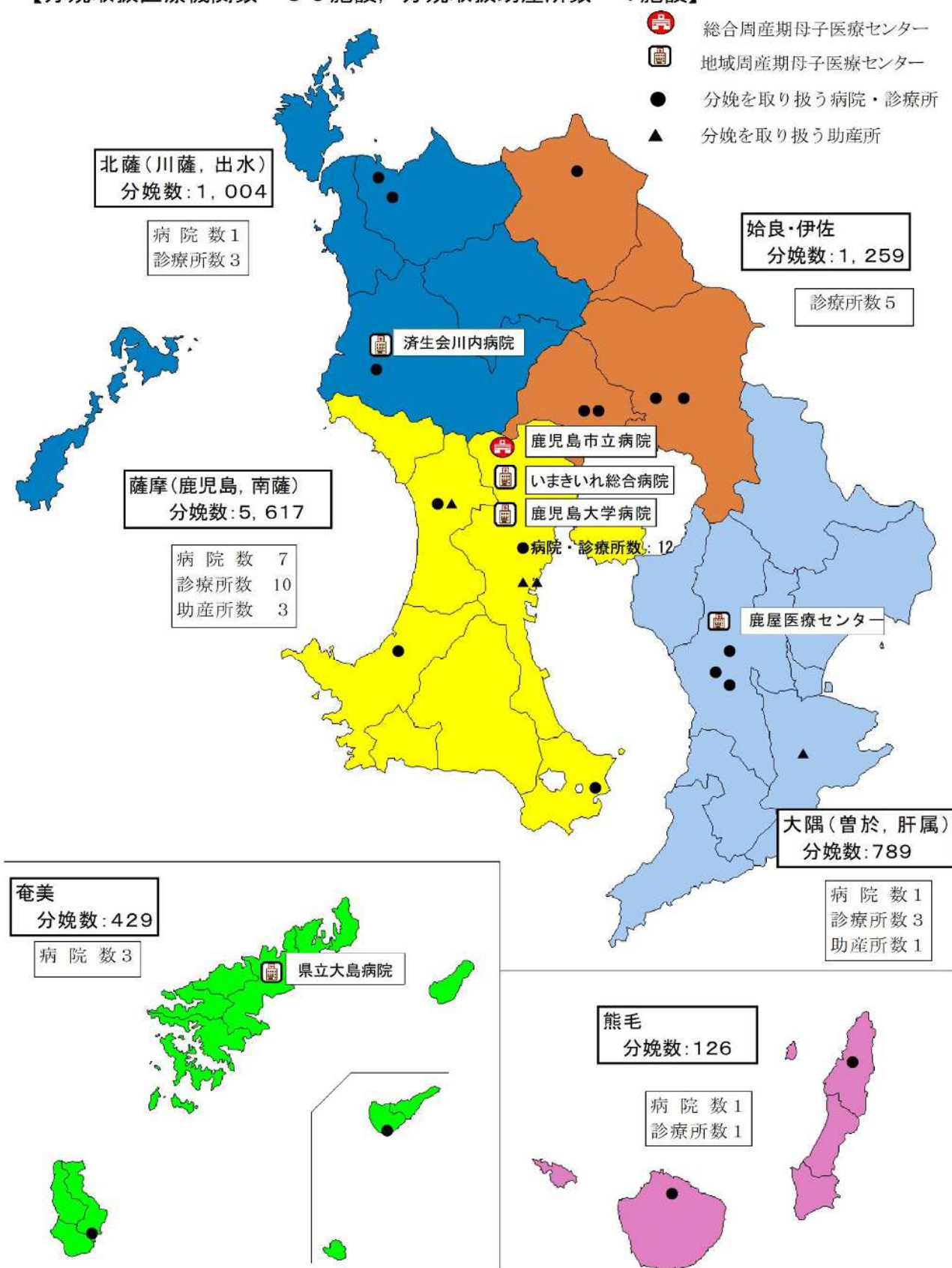
資料：県子育て支援課「状況調査結果」

図1 小児科・産科医療圏ごとの分娩取扱医療機関数等の状況

○小児科・産科医療圏ごとの分娩取扱施設数等

(令和8年4月現在)

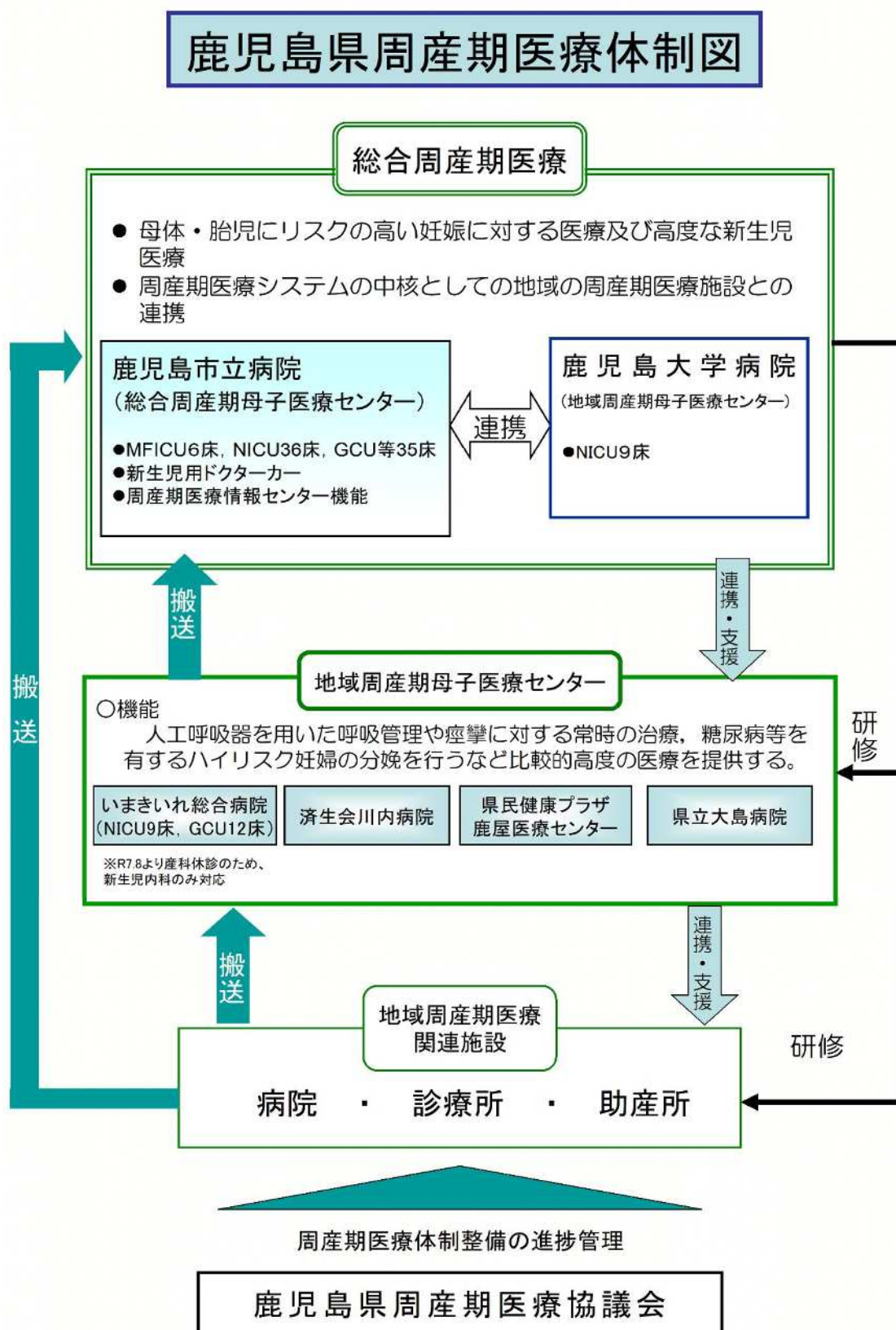
【分娩取扱医療機関数 35施設, 分娩取扱助産所数 4施設】



※1 分娩数は、R7年度実績（助産所分を含む）

※2 病院数は、周産期母子医療センターを含む。

※3 総合周産期母子医療センター、地域周産期母子医療センター、●▲は各市町村における分娩取扱医療機関等の数を表すもので、実際の所在地とは異なる。



本県の総合周産期母子医療センターは、鹿児島市立病院、地域周産期母子医療センターは鹿児島大学病院、いまきいれ総合病院、済生会川内病院、県民健康プラザ鹿屋医療センター県立大島病院の5か所が担っている。

地域周産期医療関連施設は、正常な分娩やリスクの低い帝王切開術等に対応できる医療機関、分娩は取り扱わないが妊婦健診等を行っている医療機関、分娩を取り扱う助産所。

(3) 周産期母子医療センターにおける実績等

表5 周産期母子医療センターの状況（R7. 4. 1～R8. 3. 31）

区 分		総合周産期母子医療センター	地域周産期母子医療センター					総合・地域計
施設名		鹿児島市立病院	鹿児島大学病院	いまきいれ総合病院	済生会川内病院	県民健康プラザ鹿屋医療センター	県立大島病院	
産婦人科病床数（一般）		37床	9床	21床	25床	23床	33床	148床
分娩数		641件	233件	31件	143件	119件	268件	1,435件
うち帝王切開実施数		439件	79件	16件	48件	63件	88件	733件
1日当たり従事医師数（常勤）	産科部門	16人	7人	2人	5人	4人	4人	
	新生児部門	15人	4人	3人	3人	4人	4人	
MFICU	病床数	6床						
	年間延利用日数	2,159日						
	利用実人員数	260人						
	稼働率	98.6%						
	うち搬送受入数	280人						
NICU（※）	病床数	36床	9床	9床	（1床）	（4床）	（5床）	
	年間延利用日数	11,557日	1,964日	2,649日	425日	922日	505日	
	利用実人員数	518人	115人	177人	40人	95人	45人	990人
	病床利用率	88.0%	59.8%	80.6%	116.4%	63.2%	27.7%	
	うち搬送受入数	116人	32人	118人	4人	9人	1人	280人
	低出生体重児数	302	59	123	19	26	25	554
	～999g	28	0	9	0	0	0	37
	1,000～1,499g	46	2	27	0	0	1	76
	1,500～1,999g	83	21	46	3	4	3	160
	2,000～2,499g	145	36	41	16	22	21	281
GCU	病床数	35床	（4床）	12床	—	—	—	—
	病床利用率	58.6%	—	66.9%	—	—	—	—
ドクターカー出動件数		117回	—	67回	—	—	—	—
備 考		救命救急センター新生児用ドクターカーを設置、ドクターヘリを運航		H28.2月～新生児専用救急車運用	H25年度末ドクターカー配備			

（周産期母子医療センター令和7年度実績報告書より抜粋。ただし、GCU稼働率は病院に聞き取り）

※1 NICU病床数の（ ）書きは、診療報酬非加算の病床数。 ※2 医師数は、令和8年4月1日現在。

※3 MFICU：母体・胎児集中治療管理室、NICU：新生児集中治療管理室、GCU：回復期治療室

県内で診療報酬加算の対象となるNICUを有するのは、鹿児島市立病院、鹿児島大学病院、いまきいれ総合病の3施設。

県内のNICUの許可病床数は54床で、運用病床数は48床となっている。また、GCUの許可病床数は47床で、運用病床数は36床となっている。

表6 長期入院児の状況（各年4月1日現在：周産期母子医療センターの内のNICU・GCU内）（単位：人）

	入院期間		原因疾患
	半年～1年未満	1年以上	
平成29年	3	2	新生児仮死、慢性肺疾患・気道異常、神経・筋疾患 等
令和3年	1	0	ヒルシュスプルング病類縁疾患
令和6年	5	2	超低出生体重児、先天性横隔膜ヘルニア、慢性肺疾患 等
令和7年	1	1	低酸素性虚血性脳症、腸回転異常症
令和8年	<u>3</u>	<u>1</u>	（半年～1年未満）慢性肺疾患（3人） （1年以上）低酸素性虚血性脳症
増減（対平成29年）	0	△ 1	

資料：県子育て支援課「状況調査結果」

表7 長期入院児の退院後の状況（年度実績）（単位：人）

		在宅へ	NICUから GCUへ移行 ※1	病院内 ※2	転院	施設へ移行 ※3	その他 ※4	合計
退院児数 （入院期間が 半年以上の者）	平成28年度	3	—	0	0	0	0	3
	令和2年度	7	—	1	3	0	2	13
	令和5年度	0	1	3	5	0	1	10
	令和6年度	0	7	2	4	0	3	16
	令和7年度	<u>1</u>	<u>4</u>	<u>1</u>	<u>2</u>	0	1	9
	増減 （対平成28年度）	▲ 2	—	1	2	0	1	6

資料：県子育て支援課「状況調査結果」

総合・地域周産期母子医療センターの令和8年4月1日におけるNICU・GCUの入院児は、半年から1年未満が3人、1年以上が1人の計4人で、平成28年と比べると1人の減少となっている。

入院期間が半年以上の児の退院後の状況をみると、在宅への移行が1人、NICUからGCUへの移行が4人、病院内（転棟）が1人、転院が2人となっている。

2 本県の小児医療資源について

(1) 小児科を標榜している医療機関

県内で小児科を標榜している医療機関は年々減少しており、令和5年において213施設(平成24年は289施設)となっている。

小児人口1万人当たりの医療機関数は10.9(令和5年)であり、全国の14.3(令和2年)を下回っている。また、圏域別では、奄美が22.1と最も多く、熊毛が3.4と最も少なくなっている。

主たる診療科が小児科である医師数は、平成30年度から微増傾向にあり、小児人口1万人当たりでは令和6年において10.9人である。圏域別では、薩摩が13.8人、大隅が5.0人と地域差がみられる。

表8 小児科を標榜している医療機関数の推移

区 分	平成24年	平成26年	平成28年	平成30年	令和2年	令和4年	令和5年	令和5年全国
医療機関数	289	264	260	257	245	239	213	20,234
病院	44	45	46	44	42	41	40	2,456
診療所	245	219	214	213	203	198	173	17,778

資料：衛生統計年報（医療施設調査）

表9 小児科を標榜している医療機関数（令和5年圏域別）

区 分	薩摩	北薩	始良・伊佐	大隅	熊毛	奄美	県計	令和2年全国
医療機関数	99	20	37	24	3	30	213	21,321
病院	14	3	7	3	3	10	40	2,523
診療所	85	17	30	21	0	20	173	18,798
小児人口1万人当たりの医療機関数	10.4	8.5	11.8	8.8	3.4	22.1	10.9	14.3

資料：医療施設調査、推計人口

表10 主たる診療科が小児科である小児科医数（圏域別）

小児科・産科医療圏		薩 摩		北 薩		始良・伊佐	大 隅		熊 毛	奄 美	県 計
2次医療圏		鹿児島	南薩	川薩	出水		曾於	肝属			
小児科医数	平成30年	123		16		31	15		4	5	194
	令和2年	132		17		30	14		4	5	202
	令和4年	138		20		25	15		4	7	209
	令和6年	128		21		31	13		4	11	208
	増減(対平成30年)	5		5		0	△ 2		0	6	14
小児人口1万人当たりの医師数	平成30年	11.8		6.1		9.4	4.9		7.5	3.3	9.0
	令和2年	13.0		6.7		9.3	4.8		7.8	3.4	9.7
	令和4年	14.3		8.3		7.8	5.4		8.4	5.0	10.4
	令和6年	13.8		9.2		10.1	5.0		9.2	8.5	10.9
	増減(対平成30年)	2.0		3.1		0.7	0.1		1.7	5.2	1.9

資料：医師・歯科医師・薬剤師統計、推計人口

(2) 小児に対応可能な訪問看護ステーション

県内で小児の訪問看護に対応する訪問看護ステーション数は増加傾向で推移しており、令和7年9月に実施した調査においては、85施設となっている。このうち、令和6年度において小児の訪問実績がある訪問看護ステーション数は57施設となっている。

表 11 小児の訪問看護に対応可能な訪問看護ステーション数の推移

	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度
小児に対応可能なステーション数	62	73	73	84	86	88	91	87	85	85
小児の訪問実績あり	43	46	50	54	59	66	67	61	54	57

資料：県子育て支援課調べ